



# 図書だより



うづき  
4月(卯月)

令和8年 4月9日  
第1号 滝野中学校図書室



## 入学そして進級、おめでとうございます。

はじめまして、学校司書の<sup>はたけやま</sup>富士です。司書の仕事は図書室の本の貸し出しや返却の手続や掲示、展示などの整備をして、皆さんが過ごしやすく利用しやすい図書室にすることです。

滝野中学校の生徒の皆さんが、1冊でも多くの素敵な本に出会えるように、たくさんの感動に出会えるように、お手伝いをしていきます。よろしくお願いします。図書室は心のオアシスです！



### 図書室の利用方法

開室時間……………火曜日・水曜日・木曜日

(司書の勤務日です。9:30~14:30の間、図書室にいます。)

月曜日・金曜日(昼休みに、学習・図書委員がいます。)

貸出冊数・期間…1人2冊まで、2週間です。

利用時間……………毎日昼休み。司書勤務日は図書室在室時に貸し出し・返却ができます。

司書がいる時は、“Welcome ボード”が、図書室の入口にでています。授業と授業の間の休み時間も利用できます。



2・3年生の皆さん、貸し出し開始は4月14日(火)の予定です。  
1年生の皆さんは、図書室の利用指導(オリエンテーション)を行ってからになります。もう少し待っててください。m( )m



4月のおすすめは、素敵な本との出会いが描かれている本です。

『本が読めない33歳が国語の教科書を読む』かまど・みくのしん



芥川龍之介

32歳で読書を始めた男、みくのしんの次なる挑戦は国語の教科書!『山月記』中島敦に、挫折した経験から、大人になった今、教科書に載っている作品を読んでみることに…。この本しか味わえない、不思議な読書体験を、一緒に楽しんでみてください。挑戦した作品は『やまなし』宮沢賢治、『少年の日』ヘルマン・ヘッセ(高橋健二/訳)、『枕草子』清少納言です。

『タイム・スリップ芥川賞』菊池良(きくちりょう)

「文学って、なんのため?」と思う人のための日本文学入門。100年近く続いている純文学の新人賞「芥川賞」。その歴史とは?ある少年と文学好きな科学者の博士がタイム・マシンに乗って芥川賞の時代をめぐり、その時代の受賞者や作品を紹介してくれます。新2年生の昨年度3学期の国語の授業で紹介した本。おすすめコーナーで紹介した本を置いています。



4月23日は、子ども読書の日(サン・ジョルディの日)です。



サン・ジョルディはスペインのカタルーニャ地方に伝わる守護聖人で、4月23日が命日とされ、男性は女性に花を、女性は男性に本を贈って祝う習わしがあります。日本では“子ども読書活動推進法”で“こども読書の日”に定められ“こどもの読書週間”の4月23日から5月12日に、読書活動への関心と理解を深めるイベントが行われます。今年の標語は『**ことばがきみのはねになる**』です。たくさんの発見と出会いがある“本”を、何度でも開いてください。ぜひ“本の森”の図書室に来てください。ドキドキの出会いが待っています！

『舟を編む』三浦しをん(みうらしをん)

「辞書は、言葉の海を渡る舟だ。」言葉への鋭いセンスを買われ、辞書編集部に引き抜かれた馬締光也。新しい辞書『大渡海』の完成に向け、不器用な人々の思いが胸を打つ、2012年の本屋大賞受賞作品です。映像化もされた感動の物語をぜひ読んでください。辞書を読むのも面白いですよ。

2026年「本屋大賞」の発表は4月9日です。

「本屋大賞」は、書籍や読書をよく知る全国の書店員さんが、読んでほしい本を投票で選びます。ノミネートの10作品の紹介をします。どの本が大賞を取るのでしょうか？

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 『暁星』 湊かなえ             | * 『あいか』 瀬尾まいこ      |
| 『イン・ザ・メガチャーチ』 朝井リョウ   | 『失われた貌(かお)』 櫻田智也   |
| * 『エピクロスの処方箋』 夏川草介    | 『殺し屋の営業術』 野宮有      |
| * 『さよならジャバウォック』 伊坂幸太郎 | 『熟柿』 佐藤正午          |
| * 『探偵小石は恋しない』 森バジル    | 『PRIZE—フライス—』 村山由佳 |



\*印の本は図書室に入っています。歴代本屋大賞の本も紹介しています。読んでください。



図書館で出会う“わかる”楽しさ！

図書館で手にした一冊の本から、思いもよらなかった新しい世界が広がります。新しい知識や情報、気付かなかった視点など…。そしてそれらが自分自身の一部として取り込まれたときに感じる“わかる”楽しさ。そこから“わかる”ために通る「見る、知る、読む、調べる」さまざまな道が見えてきます。図書館はその道をたどる時の頼もしい案内役です。さあ皆さん、さまざまな出会いを繰り返しながら、図書館で出会う“わかる”楽しさへの道を進んでいきましょう。

雑誌『あうる・図書館の学校』より

司書のひとりごと

日本には、微妙に違う色合いを見分ける感性と美しい言葉があります。季節を表す「伝統色」という言葉を知っていますか？そんな素敵な言葉を、毎月紹介していきます。

4月は「水色(みずいろ)」です。雪解け水、やわらかい春雨、光を反射する海…。春は、美しい水であふれています。平安時代からつかわれていたという古い色です。図書室も季節ごとに、掲示やおすすめ本の紹介が変わります。

本のページを1枚ずつめくる楽しさやドキドキの感動を感じてくださいね。

